

川越料理店組合略史

1900年（明治33年） 「川越料理店組合」を結成。

初音楼、山屋が中心。

「全国料理業同盟会」発会式に参加する形で結成されたもの。

「全国料理業同盟会」は営業税を6倍にしようとする法案に反対するために結成された。

1893年（明治26年）に川越大火があり、この頃は建築ラッシュであった。

大正時代（1912 - 1926年） 多くの名店が開業

商工会議所には30軒以上が登録される。洋風看板が随所に造営される。

花月、八百勘、

そば：福住、寿庵

うどん：縄のれん

カフェ、ミルクホール：黒猫、かねこ

寿司：中清、すし政

1922（大正11年）県下初の市に。

人口は川越市27000人、大宮町19000人、熊谷町15000人

昭和戦前（1926年-1945年）

乙種料理店組合として30軒が登録。

お店（たな）も大繁盛で、花柳界は名妓を輩出。

1930年「川越小唄」作成 作詞は西条八十

1933年＝昭和8年

新歌曲「四季の川越」作成

1937年＝昭和12年 物資の統制、食料の統制により、多くの諸団体に分かれる。

川越飲食店組合

川越西洋支那料理店組合

川越二業（料理と芸妓）同盟組合

川越甲種料理店組合

川越乙種料理店組合

川越芸妓屋組合

1945年-1989年 朝鮮戦争の前後、戦後の全盛期に

戦後、食材の仕入れもままならず、多くの店が休業。

朝鮮戦争の前後、川越花柳界の戦後の全盛期

川越料理店組合

会員店へのアクセスマップ

料亭 源氏家

すき焼き・フランス料理 吉寅

割烹 初音屋
鮭会席 幸すし
西洋料理 モダン亭 太陽軒
割烹 ささ川
居食屋 鳥せい
料亭 山屋
鰻料理 深井屋
鰻 小川菊
割烹・旅館 佐久間
日本料理 美鈴
鰻・会席料理 いちのや
鰻 東屋
割烹 福登美
割烹 川島
鰻・天ぷら 徳川
日本料理・とんかつ 登茂恵
いも料理・割烹 いも膳
日本料理 初かり亭
そばきり 悠々庵
鰻 うなっ子
松村旅館